

小さい時からこういうことをしっかり体験してきた子どもは必ず命を大切にする子になると思います。人を軽々しくいじめたりする子にはきっとならないと思います。そんなことができるのが地方の学校の素晴らしいところです。

そして、地方の役割・意義もしっかり教えてもらいたいです。農林業の大切さ、国民の食料を作ることの大しさ、それが水や環境をしっかりと守っていること、一度荒れてしまえばなかなか元に戻せないこと…。

皆様が、先人が、地道に必死にやってきたことの重み、素晴らしいをしっかりと教えていきたいです。

地方の素晴らしいを活かした教育を進めるため、地域と連携したカリキュラム『宍粟モデル』を考えてみてはどうでしょう。先生方と地域住民とが手を携えて地域の子どもたちを育むのです。地域と連携して、私達の地域を継いでくれる子を育てる教育というのを考えてみてはどうでしょうか。

A decorative horizontal border consisting of a repeating pattern of diamond shapes.

このほかにも、宍粟市には地域資源・宝がいっぱいあります。

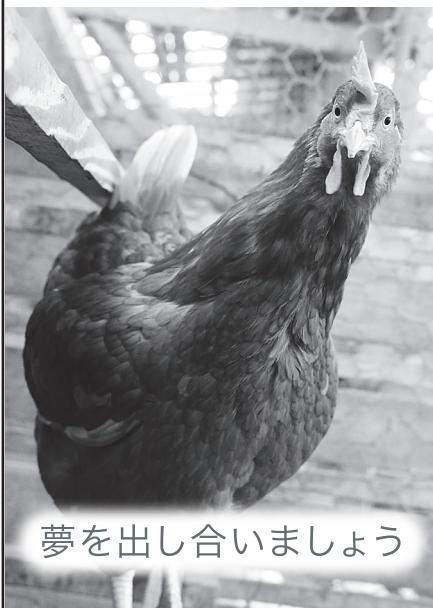
林業と直結した住まいづくり。本物でできた家に住めば病気になりにくく。

太陽熱温水、薪・ペレットストーブ、太陽光や水力による発電。こうしてエネルギーを少しでも自給することは、原子力や石油に頼らない暮らし作りになり、地球に優しく、かつ長い目で見れば非常に経済的な、時代の最先端の暮らし方です。

福祉も防災も、地方ならではの人のつながりで、都会にはないきめ細かなケアができるのではないか。ボランティアでお年寄りへのお弁当作りをされている方、ふれあい喫茶・食堂をされてる方もたくさんおられます。

今号は理想的なことを書きました。実現はなかなか難しいとは思いますが、しかし、方向性としてはとても大切なことだと思います。地方が生き残るのは、今のグローバル化ではなく、地方地方が独自にムリすることなく、地元にある物を大切にしていくことだと思います。

日本全国どこに行っても同じ店が並んでいる。便利な
ようですが、それでは中央に利益を吸い取られてしま
います。地域外にできるだけおカネを出さない。地域内で
おカネを回す。これが地域活性化の一つのキーポイント
だと思います。



夢を出し合いましょう

テレビだけを見ていては、グローバル化に負けてしまいます。そういう意味で、「宍粟チャンネル」は今からとても大切になってくると思います。

書き出せばキリがありません。できることはいっぱいあります。楽しいことはいっぱいあります。みんなで夢を出し合おうではありませんか。

とにかく、地域に出向いて行きます。話を聞かせてください。ここに投稿して下さい。皆様と共に考え、共に歩んでいきたいと思っています。

地方自治は民主主義の第一歩です。政治って本当はもっと身近でもっと楽しいもののはずなんです。皆様にそれを実感してもらうのが地方議員の仕事だと思います

頑張ります。ともに頑張りましょう。何卒よろしくお願い申し上げます。

汗と油と土にまみれて働く者が報われる社会をみんなでつくっていきましょう。

ご投稿ありがとうございました

この「百人一歩」通信は皆様と一緒につくっていく通信です。ぜひとも、皆様、ご投稿して頂ければと思います。
(全部載せられなくて申し訳ありません。)

- 今年の冬は宍粟市北部にとって、例年ない大雪にみまわれ、毎日雪かきしながら、いつ除雪車が来るんだろう？そんな不安を感じながらの生活でした。公共事業の予算削減がこういうところにも影響し、過疎化の進む地域への危機感を感じます。

今まで、行政といろいろな場面で関わることがありました。そこで学んだことは ①疑問に思うことは聞く ②まわりの人と考える ③行動を起こしてみる ④あきらめない ⑤住民の意見を持つ…等でした。

せっかく縁あってこの地域に住み、子育てして、いずれは年老いていきます。だから、その場所を少しでもいいものにしたい。住民の考えをみんなで話せる機会や場所があり、それが市政に反映できればステキな宍粟市になるのではと思います。 (千種町 60代女性)

●「必ず、帰ってきなよ。」と祖母が、手を振り送り出す。
20年前に僕が、都会に出るときのことを今でも思い出す。

両親は、「自分の人生やから」と言っていたが、おもいは、わかつっていた。そのせいか、どこかに、ふるさとのことを思いながら、日々を過ごしていた気がする。自分が帰つて小さいことでもいいから何ができるのかと。

そして、帰ってきた。今、祖母は、歳をとり自分の家もわからなくなってしまったが、僕は、帰ってきて良かったと思っている。

しかし、自分の子供に、帰ってきてほしいが、帰って来いよといえるか？このふるさとが将来どうなってしまうのか。仕事がない、人口減少、人とのつながりのうすれ、あきらめ…不安がつのる。

しかしながら、自分の子供もふくめ若者が、都会に出ても、どこかにふるさとのことを思いながら、考えて行動し、帰ってくることができる環境を作れるように、僕も考えて行動しながら生きていく。「帰って来いよ。」といえるように。
（山崎町 30代男性）